



西岡恵子 議員

いじめ・暴力

8月下旬、文部科学省より2003年度公立小・中・高等学校でのいじめ・暴力についての問題行動調査発表があった。いずれも増加傾向、県教育委員会においても同様、増加傾向と公表された。

本町での分析については
●外遊びが少なくなった
●対人関係能力が希薄
●生活習慣、価値観の変化
●大人の規範意識の減少：
等々、子供にとって社会環境の悪化、教師の指導力が機能していないとのことだが、いずれも社会全体の人間関係が希薄、体験不足も要因の一つではないか。具体的防止策について尋ねる。また、問題行動は不登

校・登校拒否にも繋がるのではと危惧する。心の教育、関係機関との連携など、愛情を持つての取組を願う。

望ましい人間関係をつくる

いじめ等の防止策としては、挨拶と思いやりのある学校生活の徹底や人権教育を根底においた生徒指導の実践が大切である。本町独自の施策として児童相談所に教員を配置し、連携を図っている。

二学期制

この制度についてはモデル校として徳島市をはじめ、いくつかの自治体では導入・検討をしているようだが、全国的には実施率

3%。賛否両論あるこの制度について、メリット、デメリットを十分考慮し、本町の子供達にとって有意義な結果となるよう、導入には慎重な検討を願う。

よく協議して慎重に検討

二学期制の導入により学力低下が防げることも考えられるが、導入にあたっては熟慮を重ね、慎重な対応を図りたい。

保育所への入所

入所を希望した場合に、どのような条件があるのか。妊娠・出産・育児とまだまだ女性に負担がかかっているのが現状、そんな中でも就労を希望する女性も増加している。しかし、雇用条件では子育てしてくれ人があることが条件のようである。子育て支援としての保育所の対応はいかがか。

一時保育などで対応

保育所の入所については、日中就労などにより家庭内で保育ができない場合、保護者が出産の前後や病気などの場合、家庭が災害などに遭い保育ができないと認められる場合などに対象としている。就労希望者への子育て支援としては、中央・東保育所の一時保育や板野東部ファミリア・サポート・センターなどを紹介している。

防災

相次ぐ大型台風の来襲、紀伊半島沖の地震と自然災害の脅威を感じ、町民の防災意識も高まってきている。この度のいくつかの台風時に災害対策本部を設置したとのことだが、概略について尋ねる。

台風通過まで警戒にあたる

豪雨、河川の氾濫、堤防の決壊、高潮と浸水被害も多かったようだが、本町の地理的特性として海拔5・17mを考えるとハザードマップ（洪水災害予測地図）の住民周知が大切と考える。災害についての避難は「正しい方法で早く」が鉄則、きちんとした情報を知る可否かで1時間以上早く避難できたという調査結果もある。防災マップ同様ハザードマップの住民への一日も早い周知を願う。

台風来襲時の警戒体制については、藍住町防災計画において4段階の配備体制をとり、町内の巡回や支障の生じた道路の応急処置などにあたった。

ハザードマップについては、色々な避難等の問題点も検討した上で、周知できる方法を考えていく。



藍住町立中央保育所